

R 7 年度からの赤塚新町小学校の経営について

校長 阿井 隆

1 学校教育目標と目指す児童像

- かしこく 学習に見通しをもち、意欲的に取り組む子
他の考えを取り入れながら考える子
互いの良さを尊重しながら学び合える子
- つよく あきらめない強い心をもつ子
やりとげる子
くじけない子
- あたたかく 自己肯定感の高い子
自己抑制ができる子
思いやりがある子
他のために積極的に働く子

2 基本方針

○ 学校像

- ① 子どもと教職員が活力に満ち、満足できる学校
- ② 確かな学力、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる
- ③ 保護者が安心して通学させることができ、地域の方々が誇りと思える学校

○ 保護者と地域

- ① P T A とジャオクラブとの協働していく（教員が関わり合う）
- ② 学校支援地域本部に活動を協働して支援してもらう活動を推進する
- ③ 保護者が安心して通学させることができ、地域の方々が誇りと思ってもらう

○ 保護者への通知（学校の方針として）

私の目指す学校は、地域と共にある『子どもも、大人も、集いたくなる学校』です。
わくわく、ドキドキがある、何かを期待させる学校」
人が集まり、かかわりが多くもてる、ふるさととなる学校」
楽しい授業、楽しい学びのある学校」

そのために、子どもへ「3つのかける」の実践を大切にしていきます。

- ・目をかける…子どもの様子をよく見る＝変化に気付く目
- ・声をかける…子どもと関わる
- ・一人一人を承認する＝子どものやる気を出す
- ・時間をかける…できることをできるかぎりする
- ・支援する＝子どもの力を伸ばす

それが、

子どもたちが毎朝、友達や先生に会うことを楽しみにする学校」
保護者が自分の子どもを入学させてよかったと思える学校」
「地域の方々が赤塚新町小学校を誇りと感じるような学校」
につながっていくもの

R 8 年度の赤塚新町小学校の取組について（6 月版）

校長 阿井 隆

授業について

次期学習指導要領の理念に向けての取組を実施していくことを研究奨励校として目指したい。板橋区の「MIRAI SCHOOL」とともに実施し特に「探究」を常に意識してキーワードとして考えたい。ICT の活用についても児童が主体となった取り組み（自主的・自己選択・自己調整）での活用を視野に入れて授業を展開する。新しい時代に必要となる資質・能力の育成として、子供たちに「学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力」と「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」を図ることは、今年度も引き続き大切にしていく。

方針のバージョンアップ

- R 7 「読み解く力（表現力）」と「個別最適な学びと児童自らが主体的な学びをする」の 2 つの面を意識的に伸ばす授業の展開をしていく。
- R 8 「確かな学力の向上－自己選択・自己調整の学び、考える力と説明する力」
「地域を活用した学習－光が丘公園から学びをスタート・追究課題を自己選択」
「地域を活用した学習－赤塚新町公園とゆりの木施設との協働した学習。郷土愛」
「小中一貫教育－小小連携「日光ラボ」の展開・中学校との連携・保育園交流」
「生命尊重教育－光が丘公園の環境保全活動を授業と関連させ意識向上を図る」
「多様性の教育－特別支援学級との交流教育活動を推進する＝多様性理解」
「コミュニティスクール（地域の人材）活用をした授業－オンラインでの活動」
「教科担任制の授業を異学年でも可能にしていきたい－教材研究の軽減化」

授業の振り返りをしましょう。

- ① 自分の考えを他者との対話によって広げ深めるような単元構成での授業実践であるか。
★話し合いだけではない、一人一台端末（タブレット）を用いての学習形態で行う。
- ② 各教科における見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解する学習活動となっているか。（教科横断的な学習展開・総合的な学習を中心としてなど）
- ③ 単元がねらっていることを理解して指導を計画し、その時間のねらいを常に意識し明確にもち、教える内容を意識した授業展開をおこなっているか。
★授業のねらいの明確化、問題解決的で自主的な学習形態で行っていく。

授業改善としての取組

- ① 「授業革新」ということを板橋では続けています。授業の改善は日々求められます。
→子ども同士が授業を作っていける「学び合う」ような展開の授業を日常で行う。
（教師が指示をして、児童がそれを習っているという形態の授業は改めていく。）
★⇒新しい試みの授業時には、管理職に声を掛けてほしい。見学させていただき、感想を述べて、一緒に授業を創りましょう。校外等への研究会に積極的に出かけて、自分の授業の見つめ直しや新たな指導の仕方を知ることをする。
自校内で授業参観をしあい、授業力を高めましょう。見たら意見を伝えて！
⇒ミニ研修会・自主的な授業公開をする（研推がリード）授業観察時はチャンス！
- 今年度は授業の実践の提案を積極的に行う。（研究授業だけでなく）
「他校の授業公開」にも参加して自己の見識を高めて自主研修意識を向上しよう。

② ★タブレット（ICT）を児童が主体的に活用し、意見交換している授業の展開を見せてほしい。（児童同士が授業を進めるような展開の授業）

・資料の提示としての活用だけでなく、タブレット端末を児童が活用した学習をする。

→例 授業の様子を撮影（自分や実際の様子等を記録）して、意見をもち、公開して他者からの意見をもらい合う（対話的深い学び）展開を日常化していきたい。

観察実験の際に撮影し、結果の共有化をしながら自分たちの意見を再考して高める。（自己調整）する。

⇒児童自身の新たな気付き・発見につながる（主体的な学び）等をデータ整理して分析する授業展開（セレクトと自己調整）にできないか

⇒基本＝タブレットを道具として活用し、画像や映像資料として利用して自らが違いや改善点に気付ける授業をベースに実践する。

応用＝授業内での意見交換など行う学び合いに活用を図る。（対話的学び）
（提案の研究授業でも見られるとよい）

★家庭での学習＝すららドリルの活用（宿題含む）をしていく。

個人追究の調べ学習も推奨していく「テーマは各自で決める」（選択）

③ 研究熱心でいてほしい。

常に授業のネタを考える習慣化をもつ。

（考えるときに考えても、なかなか良いアイデアが浮かぶことは少ない。思いもよらぬタイミングや、ふと、思いつくことが多いはずです。→何かにメモをしておく）

④ 積極的な授業実践の公開や授業の検討を日常的に行う気持ちをもってほしい。

「どう教えたらいいのか」、「この単元はどう指導するのか」個々が研修することは大事だが、他の人に意見や予想される成果を教員同士で尋ねることも大事です。

その際には、「自分の指導観」をもって訪ねるのはあたりまえです。教えてもらうのではなく、「気付かない点を自分の案に加える」という意識でいてほしいです。

→将来への財産になります。研究はうらぎらないです。やってこないと言えません。

板橋コミュニティスクール7年目として 持続可能な取組として考えていく。

① 小中一貫カリキュラムを考えたい。学びのエリアでの継続できる内容を中学校と一緒に考える。SDGsを教育に取り入れること等も視野に…

今年度は、小小連携を進め、「日光ラボ」中学校への具体的な提案をするような取組も考えたい。

本校はどうする？⇒光が丘でのフィールドワーク（体験）活用した教材での学びを

生活科・理科や社会科、総合的な学習の時間での取組を見直して次年度には提案できるような年間計画の改定をしていきたい。また、環境教育や伝統的な学習を核として検討し、計画案を立てて実践することも検討したい。

校庭の芝生や「緑のカーテン」等の取組もきっかけの一つかと？もっと、児童に意識させなければいけない。（例 4年理科へチマ活用・社会科の資源再利用など）

②★授業に地域の外部人材や講師等の活用をする。オンラインでの企業との授業展開（5年生バニラ産業の授業だけでなく社会科見学をオンラインで受けるー短時間可等）

学校支援地域本部のサポートだけでなく、積極的な外部講師としての活用や人財発掘を意識して、授業展開して欲しい。（1校時時間でなく分単位の短時間の活用もあり）

教師だけで行うのではなく、外部の方を活用してコーディネート的な役割であってもよいと考えている。場合によっては、補助としての助言もしていただくのも可能です。

⇒地域人材の活用〇〇講師となるような授業展開を2ヶ月に一度位できないだろうか。

③ 地域の行事や地域との連携した取組について実施案を考えてほしい。

(低学年と5組の光が丘公園の植栽や6年生が地域清掃活動等を広げて実施する等)

地域が提案してくるものは、労働力を求めてくる。私たちは子どもの扱いはプロであるなら、指導ができる。指導するだけで、運営や見守り等を地域がするような形態の行事と一緒に活動するようなあり方を提案する。(地域とコラボ)

★⇒地域の防災から災害対応での訓練意識を育てていきたい。(区の防災課と連携する等)
地域防災訓練などで安全教育を実践する等。(自助・共助の心(意識)を育む)

新しい取り組みの推進

①★赤三中学校との連携において、もう少し進めていく。

○小学校の活動が中学校へとつながるような活動の取組を試行錯誤する。リードする？。

○研究奨励校としての2年目は、授業革新(新しい授業の展開を提案するよう実施)をする。他校の講師に指導を1学期中に受け、改善授業を自主的に公開して12月に見せていきましょう。

② 中学校との共同授業の案を計画している。今後の具現化を進めていきたい。

例 体育や英語など

⇒リトルティーチャーとして授業に入った指導(保留)

⇒防災教育を安全教育として行い、小学生に防災意識をもたせるようなつながりを考えていく。

★様々なできそうな、授業案をたてて、企画してほしい。

⇒音楽科・楽器指導など

⇒乗り入れ授業へもできるなら…

教科担任制の実施

① 学年間の授業交換⇒2学級あるところは必ず実施してほしい。最低でも単元での交換を実施していく。

各学年1回は行いたい。(学校評価－外部の視点に入れています。)

② 異学年間の授業実施(専科的な運用)も検討する。

できる範囲でやってみたい。

働き方改革

残業時間の削減については、努力してほしい。45時間以内をお願いします。

月80時間を越えるとアンケート実施となる。水曜日は定時退勤日を遵守しましょう。

残業が多いの改革を「仕事を減らす＝しない」ではなく、「残業しないような仕事の構成」に変える。しなければいけないことは、時間がかかってもする。その分を省くを検討する。

パソコンで起案文書等を作成し、データ化(一般化)する。

C4th活用し、書類での起案を減らす工夫を継続していく。